

来週の市場とレート予想

	1/30(月)	1/31(火)	2/1(水)	2/2(木)	2/3(金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	+ 700	△ 1,000	ト ン	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 11,900	△ 1,000	△ 4,000	△ 59,000	+ 2,000
資金需給	△ 11,200	不 2,000	△ 4,000	不 60,000	余 1,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)			法人税・消費税・保険揚げ	
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,400 国債補完供給 + 100 CP等買入 △ 400				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,500 ETF買入 + 200	短国買入 + 12,500 国債買入 + 12,700 CP等買入 + 3,000			
(日本)	日銀金融政策決定会合(1日目)	日銀金融政策決定会合(2日目) 黒田日銀総裁記者会見 展望レポート発表 完全失業率(12月) 有効求人倍率(12月) 鉱工業生産指数(12月)	基調的なインフレ率を 捕捉するための指標	マネタリーベース(1月) 対外対内証券売買(前週分) 日銀営業毎旬報告 (1月31日現在)	金融政策決定会合の議事要旨 (12月19、20日分)
(海外)	米 中古住宅販売成約 指数(1月) 欧 ユーロ圏消費者信頼感 (1月、速報値) 欧 ECB総裁講演	米 FOMC(2月1日まで)	米 FOMC声明発表 米 ADP雇用統計(1月) 米 ISM製造業景況指数(1月)	米 新規失業保険申請件数 (28日終了週) 欧 ECB経済報告	米 雇用統計(1月) 米 ISM非製造業景況指数(1月) 米 シカゴ連銀総裁が講演

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.03 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.02 ~ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初327兆1,400億円から始まった。24日には国債買入オペ・国庫短期証券買入オペ等を主因に329兆円台まで増加し、330兆4,100億円で越週した。
無担保コールON物は、週を通して概ね△0.08~△0.03%のレンジで取引された。同加重平均金利は△0.051%~△0.048%で推移した。また、一部市場参加者の試し取りによる0.001%での出会いが散見された。
ターム物は、1W~2Wで△0.03~△0.02%を中心に取引された。
総務省が27日発表した2016年平均の全国消費者物価指数は、CPI(除く生鮮食品)が前年比0.3%下落の99.7となり、4年ぶりのマイナスとなった。また、12月の全国消費者物価指数は、CPI(除く生鮮食品)が前年同月比△0.2%の99.8と、10カ月連続のマイナスとなった。

来週の予定は、国内では、日銀金融政策決定会合(1月30・31日)、有効求人倍率・完全失業率・鉱工業生産指数(1月31日)、海外では、ドラギECB総裁の講演(1月31日)、FOMC(1月31日・2月1日)、米国雇用統計(2月3日)などが挙げられる。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.300 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行額は約16,300億円で、期落ち額約12,400億円(金融機関・ABCP除く)を大幅に上回った。卸売、鉄鋼、カードと、幅広い業種で大型発行が見られた。

a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れで推移した。

現先レートの中心は、-0.100%~0.000%程度で推移した。

来週の期落ち額は4,300億円程度となっている。

<TDB>

26日に国庫短期証券3M第660回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.2525%(前回債△0.2805%)、平均落札レートは△0.2733%(同△0.2861%)と前回債と比べて利回りは上昇した。セカンダリーは3Mで△0.275%近辺の地合いとなっている。6M・1Yは目立った出会いは見られなかった。来月2日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初、△0.095%近辺の水準から始まり、週央までは同水準で推移した。30日受渡はTDB3Mの発行日であったが、△0.09%~△0.095%での出会いとなり、レート水準はほとんど変わらなかった。週末には国庫短期証券・国債買入オペが合計2兆5,200億円オフアールされたことに加え、月末要因も重なり、一部△0.20%近辺での出会いも見られるなどレートが大幅に低下し越週した。

SC取引では、週を通して10年333回債、10年335回債のビッドが多く、333回債は△0.10%台後半~△0.20%台半ば、335回債は△0.20%台で多く取引された。その他2年370・371回債、5年125・127・128・129・130回債、10年330・332・333・334・335・341・342・343・344・345回債、20年158・159回債、30年50・51・52回債、40年9回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。